

## SDGs 達成に向けた取組み

### 下水道管路のストックマネジメントの推進



#### 目的・背景

日本の下水道管渠の総延長は約 49 万 km あり、標準耐用年数 50 年を経過した管渠の延長約 2.5 万 km、20 年後は 19 万 km (39%) と今後は急速に増加します。

そのなかで、国が推進する既存ストックを活用し、耐用年数を延伸するというストックマネジメントの考えに基づき、管路更生の各工法の技術取得に取り組んでいます。

#### 具体的な取組内容

以前は、スクラップアンドビルドという考えのもと、古くなったものを壊して、新しいものを設置するという開削工法でインフラ（下水道管）の健全性を保っていました。

従来の開削工法では、大型の機械・車両を使用するため、それに付随し多くの燃料を必要とするため、GHG（温室効果ガス）の排出量が増え、また多くの産業廃棄物（老朽管）の発生があります。

しかし現在では、既存の下水道管を活用し、耐震化・長寿命化を図る管路更生への取組みが各自治体で進んでいるため、地域のインフラに携わる企業として、様々な現場環境に応じた対応ができるよう高品質で多彩な工法を取り扱い、工事を実施することで、GHG の削減・産業廃棄物の削減につながっています。

#### 施工現場例

松山市発注工事「公共下水道管渠長寿命化工事（その 30）」（R5.11 完成）

松山市発注工事「修繕 4 東中島地区簡易水道導水管再生工事（中島大浦）」（R5.3 完成）

#### 成果

適正な工事を行い、下水道管理者の要求事項を完遂することで、SDGs17 のゴールのうち、6「安全な水とトイレを世界中に」11「住み続けられるまちづくりを」13「気候変動に具体的な対策を」に貢献しました。

#### 担当者の思い

今後は、SDGs やカーボンニュートラルへの取組みが、必要不可欠な時代が既に到来していると感じているので、これからも可能な範囲で取組みを継続していきたい。

〈代表取締役 菊池 臣起〉



施工前



完了